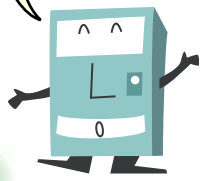


4

自販機には省エネの工夫が詰まっているよ。

電気の無駄をなくす工夫がいっぱい詰まっているよ。



学習省エネ

内部に組み込まれたコンピュータが、売れ行きを分析して、必要な時間帯にだけ電気を使うようにコントロールします。

照明センサー

周囲が暗くなると点灯し、明るくなれば照明が消えて電気の無駄をなくします。

部分冷却・加温システム

冷蔵庫のように庫内全部を冷やすのではなく、もうすぐ売れていく商品だけを部分的に冷やしたり温めて、使う電気を節約します。

真空断熱材

商品の温かさや冷たさが逃げないように工夫しています。

ヒートポンプ

自然の熱をくみ上げて移動させ、少ない電気で温めや冷却をおこなうしくみ。

ピークシフト(エコ・ベンダー)

電気がもっとも使われる夏場の午後には、冷却運転を停止して、発電所の負担を削減し、発電に伴う二酸化炭素(CO₂)の排出を抑えています。

缶・ペットボトル飲料自販機の消費電力は、2011年までの20年間で70パーセント以上削減しました。そして省エネ法の目標値を1年早く達成しました。

飲料自販機は数が多いので、電気をたくさん消費すると思われがちです。そこで製造メーカーは、早くから省エネ対策を進め、その結果今では、産業界でもトップレベルの省エネを実現しています。

● 缶・ペットボトル飲料自販機1台あたりの年間消費電力量グラフ

